

第4章 「自己評価レポートポートフォリオ」

4.1 「自己評価レポートポートフォリオ」構築の背景と目的

「自己評価レポートポートフォリオ」は、もともと「レポート提出システム」として運用していた。一般的にレポートは紙媒体で提出するが、学内のイントラネットに学生たちが慣れるようにという意味合いにおいて開始した。このシステムを借用したものであり、従来のレポート提出に加えて、学生が受講した科目の「達成すべき行動目標」に対する達成度確認を行う機能を加えたポートフォリオである。

後者は1.3.(2)で述べた「各学期の達成度自己評価」の入力項目の一部と全く同じで、各科目の授業アンケートの「学生の行動目標」に対する達成度を「%」で自己評価し、その理由を文章で登録するものである。教員は学生の達成度を数字で、評価理由を文章で確認することができるようになったのである。

4.2 「自己評価レポートポートフォリオ」の運用と成果

これはすべての授業科目、課外学習、クラブ、プロジェクト活動などの各担当者が設問項目を情報処理サービスセンターに申請登録することによって活用することができる。2例紹介しておきたい。

人間と自然 I	提出済
クラス名列:1A2-3 氏名: 工大 太郎	
設問:穴水研修レポートを記述してください	
設問に対する回答: 設問1、チームワークの必要性について、現時点における自分の考えを述べよ。 一人では偏った考えになってしまいがちだが、チーム全体で考えれば、さまざまな意見が出て、自分だけでなく、チーム全員の視野が広がると思う。また、一人ではできないことも、チーム全員で力を合わせればできると思う。このように、一人では決してできない事をチーム全員で力を合わせて行うことが、今の世の中では必要だと思う。	
設問2、共同生活では「挨拶しあう」ことが大切である。これについて自分の考えを述べよ。 挨拶をしあうという事は、礼儀、そして人と人の友好を深めるためにとても大切なことだと思う。「親しき仲にも礼儀あり」という言葉があるように、どんなに仲の良い友達にも挨拶は大切だ。また、挨拶をされたら返す、自ら進んで挨拶をして返してもらおうということをするれば、その日一日気持ちよくなると思う。よって、私は「挨拶をしあう」ことはとても大切だと思っている。	
設問3、共同生活では「時間を守る」ことも重要である。時間を守ることができたかどうかを含めて思うところを述べよ。 時間を守るという事は礼儀のうちの一つだと私は考えている。なので、私は常に5分前行動を心がけている。今回「人間と自然 I」での、共同生活でも時間を守るため、最低でも集合時間の5分前には集合場所へ行った。また、時間を守り、早くに集合できた事により、私だけでなく、仲間や先生方も気持ちよく事を進められたと思う。	
設問4、「人間と自然 I」の研修がまもなく終了する。終わるに当たって感じたことを述べよ。 入学してまもない為、お互いよく知らない人同士の班となり最初は半クシャシた。だが、私の場合、班員にとっても恵まれていたのか、すぐに班員と打ち解けることができた。グループ発表に向けての話し合いや、カッターでのチームワークも、とてもよく取れるようになり、疲れもあったが、とても充実したものとなった。「人間と自然 I」の教育目的も十分達することができたように感じた。	
更新日: 2006年4月26日	
戻る	

【図4-1】「自己評価レポートポートフォリオ」:「人間と自然 I」

「人間と自然 I」(【図4-1】)は最も基本的なポートフォリオの利用方法で、レポートをこの画面に入力もしくは貼り付けるものである。画面上に科目名である「人間と自然 I」、その下に「穴水研修レポートを記述してください。」とあり、いくつかの設問、例えば「チームワーク

についてどう思いますか」に対して入力する。これは「保存」というポートフォリオの原型といえよう。

いま一つは「日本学」(【図4-2】)で、この科目の受講学生が「達成すべき行動目標」である「①日本の歴史上の人物を1人選んで、調査・研究を行い、その成果を課題レポートとして提出できる。」について、1)達成度(0%・20%・40%・60%・80%・100%)を1行目に記述し、2)その理由を100~200文字以内で2行目以降に入力しなさい。」、およびその他の項目に回答するものである。学生は文章で受講科目の達成度を具体的に分析することによって、受講成果の確認を行うことになる。単に科目の可否についての満足・不満足で終わることがないようにする仕掛けでもある。このポートフォリオの機能が「各学期の達成度自己評価」の一部と同様であることは先に述べた。

日本学		提出済
クラス名列:		
戻る	印刷する	
設問: 行動目標「①日本の歴史上の人物を1人選んで、調査・研究を行い、その成果を課題レポートとして提出できる。」について、 1)達成度(0%・20%・40%・60%・80%・100%)を1行目に記述し、 2)その理由を100~200文字以内で2行目以降に入力しなさい。 (Aコース受講者のみ記入)		
設問に対する回答: 80 株式会社HONDAの創設者である本田宗一郎を調査・研究することで有能な技術者の人生を知ることができ、その人生と自分の人生プランを見比べることによって、何に注意をし、何を目的にすればいいのかなどの参考にすることができた。		
更新日:2008年11月11日(111文字)		
設問: 行動目標「②日本および日本人の特質を理解し、その概要を適切な日本語の文章で記述できる。」について、 1)達成度(0%・20%・40%・60%・80%・100%)を1行目に記述し、 2)その理由を100~200文字以内で2行目以降に入力しなさい。		

【図4-2】「自己評価レポートポートフォリオ」:「日本学」

このように「自己評価レポートポートフォリオ」は、担当者が与えた課題を整理していくカバン、引き出しであり、最も簡易なポートフォリオの運用である。

教員側にとってのメリットは、提出・未提出学生を正確に把握することができることにある。つまりレポートの提出・未提出のトラブルが起きないことである。教室や研究室のポストをレポート提出場所とする方法が普通であろうが、そこで起きうるリスクを避けることもできる。

4. 3 展望と課題

「自己評価レポートポートフォリオ」を「レポート提出システム」として利用している科目は多い。しかし学生と教員が共有できる自己点検機能としての利用は、開講全科目数から見ると少ない。現在後者の機能を採用しているのは、修学基礎教育課程の全科目(人文社会科学及

び生涯スポーツ) および教職科目で成績評価の一部としているが、それらは合計 56 科目にすぎない。

大学での組織的な自己点検作業 (FD 活動) が義務化された今日、にこれが教員個人レベルまで求められることになるのは確実であることから、各科目における運用価値は十分にある。恐らく近い将来に運用が始まるであろう「ティーチングポートフォリオ」の有力なデータのひとつになるはずである。

なお科目以外においては、クラブ活動、夢考房プロジェクト、インターンシップ、課外学習プログラムなど対象となる活動は多いが、さすがにその利用学生数はほとんどいない。